

注意点	【前期または後期】 1. 遅刻3回で、1時間の欠課としてカウントする。 2. 実技では、学校指定のジャージ、Tシャツ、ハーフパンツおよび運動靴を必ず着用すること。 3. 授業時の無駄な私語、身勝手な行動、申告がない途中退出、非協力的態度などについては「授業への参加度」から減点する。 4. 天候や進捗状況により授業内容を入れ替えるなど一部変更することがある。 5. やむを得ない理由により見学しなければならない場合は、予め担当教員に申し出て相談すること。 なお、見学中には何かしらの課題に取り組むことで授業の一部に参加しているとみなすが、実技点の評価には含まない。 (※特定の運動が実施できない特別な理由などがある場合は、医療機関からの診断書の提出が必要な場合がある) 6. 教員からの連絡手段としては、主にMS Teamsを利用して連絡する。 7. 種目選択の際に、既定人数よりも多い場合は抽選を行う。
	☆保健体育は、実験実習同様に出席をして活動することが前提条件となる ※授業1回目のオリエンテーションで説明する保健体育の規定欠課数を超える者については追加課題を与えるか、評価の対象としない場合がある ※半期1単位分なので出席状況については十分注意すること。 ※3分の1欠課を超える欠課がある場合は、進級不可となるので注意すること。 ※各種目での評価点を95点換算し、ガイダンス課題点（5点）を加えた暫定評価点を基に、各種目間の平均値のばらつきを調整するために、中央値補正法を参考に算出された評価点を最終評価点とする。 ※再試験は、規定により欠課数が7.5時間（3.75コマ）を超えている場合は実施しない。 （コンテスト出場など特別な事情があり、欠席届の提出がある場合のみ再試験の実施について審議し考慮される場合がある） ※半期で6時間（3コマ）以上欠課の場合は、学年末に再試験または追加課題の対象とする。追加課題対象の場合は、課題提出をもって最大65点を目安とした評価とする。 ☆過年度生についてはカリキュラムが異なるので、別途補講が必ず必要となる。前期開始時に個別に説明を行うので不明な点は教員に確認すること。 (2023/3/23作成)

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション・種目選択	・種目選択 ・授業の流れの確認
		2週	フォアハンドストロークとバックハンドストロークの打ち方の基本, ラケット, ボール慣れ	・基本的技能の習得 ・ラケット, ボール慣れ
		3週	フォアハンドストロークとバックハンドストロークの打ち方の基本, ラリー練習	・基本的技能の習得 ・ラケット, ボール慣れ
		4週	フォアハンドストロークとバックハンドストロークの打ち方の基本, ラリー練習	・基本的技能の習得 ・ラリーの継続
		5週	新体力テスト	・新体力テストの実施
		6週	新体力テスト ラリー練習, サービス練習	・新体力テストの実施 ・基本的技能の習得 ・ラリーの継続, サービス技術の習得
		7週	ラリー練習, サービス練習, ボレーの基本練習	・基本的技能の習得 ・ラリーの継続, サービス技術の習得
		8週	ラリー練習, サービス練習, ボレーの基本練習, ルールの理解, ダブルスゲームの実践	・基本的技能の習得 ・ラリーの継続, サービス技術の習得 ・基本ルールの確認と実践
	4thQ	9週	ゲームの戦術（サービスリターン, アプローチ&ボレー） ダブルスゲームでの実践	・基本的技能の習得 ・応用的技能の習得 ・基本ルールの確認と実践
		10週	ゲームの戦術（コンビネーション） ダブルスゲームでの実践	・基本的技能の習得 ・応用的技能の習得 ・基本ルールの確認と実践
		11週	ダブルスゲームによるリーグ戦	・基本的技能の習得 ・応用的技能の習得 ・基本ルールの確認と実践
		12週	ダブルスゲームによるリーグ戦	・基本的技能の習得 ・応用的技能の習得 ・基本ルールの確認と実践
		13週	ダブルスゲームによるリーグ戦	・基本的技能の習得 ・応用的技能の習得 ・基本ルールの確認と実践
		14週	ダブルスゲームによるリーグ戦	・基本的技能の習得 ・応用的技能の習得 ・基本ルールの確認と実践
		15週	スキルテスト, まとめ	・スキルテストの実施
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	

				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	実技	相互評価	参加態度	ポートフォリオ	その他課題点など	合計
総合評価割合	0	45	0	45	0	10	100
基礎的能力	0	45	0	45	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0